

# 大人への門出を 祝うために

～今後の静岡市成人式典の開催形態について～  
(提言)



静岡市成人の日式典の開催に関する検討委員会

平成23年9月

# 目 次

はじめに	・・・・・・・・	1
1 成人式の起源とこれまでの経緯	・・・・・・・・	2
2 静岡市の現在の成人式の課題	・・・・・・・・	4
3 成人式に求められる視点	・・・・・・・・	5
4 静岡市にふさわしい成人式運営形態の検討内容	・・・・	7
5 静岡市にふさわしい成人式運営形態を実現するために	・・・・	9
6 成人式典検討委員会の開催の経緯	・・・・・・・・	13
7 委員のコメント	・・・・・・・・	14

## はじめに

成人式典は、両親や周りの大人の温かい思いに見守られてきた子ども時代を終え、大人としての社会的責任と使命を自覚し、自ら生き抜こうとする新成人の晴れの門出を社会全体で祝い、励ます人生の上で重要な儀式です。

静岡市における成人式典の状況は、2市2町の合併を経て、平成15年4月の旧静岡市と旧清水市の合併から間もなく10年が経過しようとする現在も、新成人全体の式典とともに清水地区における独自の地区成人式が開催されており、ひとつの市の中に異なる開催形態の成人式典が併存しています。こうした中、成人式典を取り巻く昨今の社会的状況の変化にともない、解決すべき課題が顕在化しています。

こうした課題に対して、平成23年4月に「静岡市成人の日式典の開催に関する検討委員会」において、幅広く市民の声を聞き、今後目指すべき静岡市成人式典の開催形態について方向性を検討することを依頼されました。

検討委員会では、まず始めに、これまでの経緯や課題を踏まえた上で、成人式典に求められる視点について議論を重ねました。さらに、この視点に基づき静岡市にふさわしい運営形態について、様々なパターンを想定し長所と短所を比較、検討してまいりました。

しかしながら、一回の改革だけで飛躍的に大きな成果が出るというわけにはいきません。そのため、簡単に完成型の成人式を望むものではなく、今後とも全ての関係者の皆様の継続的なご尽力により一層の改善が行われることを期待し、委員会の意見を取りまとめ、提言するものです。

平成23年9月

静岡市成人の日式典の開催に関する検討委員会

## 1 成人式の起源とこれまでの経緯

成人式の起源は、埼玉県の蕨町（現蕨市）が行った第1回青年祭に由来するとされており、当時（昭和21年）は終戦間もない時期で、敗戦によって世の中が混迷の最中にあり、青年に将来への希望を持たせてあげたいとの切なる願いから自治体と青年団によって『青年祭』という呼称で企画されました。

成人式に関連する法として「国民の祝日に関する法律」（昭和23年7月20日制定）第2条では『成人の日』とは「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます。」と定められています。

また、昭和24年1月5日に都道府県教育委員会あてに出された文部次官による発社1号では「国民の祝日に関する法律」の趣旨に基づき成人の日行事を行う参考が示されました。

その中では、対象を現在の満20歳とは違い、適当な年齢層と幅をもたせていたり、行事を一時的なものに終わらせず、引き続き心身の修練に努め、自覚を持ち続けていくものと示されました。

昭和31年12月10日、都道府県教育委員会あてに出された文部事務次官通達によると、年齢は現在と同じおおむね満20歳とされ、対象者よりも若い世代などの参加が望ましいとし、式典自体を厳粛で温かみのあふれたものにするよう示されました。

### < 静岡市における成人式の経緯 >

平成10年	静岡市、清水市、蒲原町、由比町各々一箇所で集中開催 式典中の新成人による私語や、携帯電話による通話などマナーの悪さ、私語や騒乱など粗暴行為が社会的に問題となる。
平成11年	清水市 地区（中学校区単位）開催方式に一部変更
平成12年	静岡市 事前申し込み制に変更 参加者数が該当者の20分の1程度に制限される。
平成14年	静岡市 ツインメッセ静岡で新成人による成人式の開催
平成15年	旧静岡市、旧清水市合併 従来の形態で継続実施
平成19年～	新成人が主体となって企画、運営する静岡成人式と同じ日にグランシップで開催 1部 市主催の式典（事前申込制） 2部 新成人による有料の静岡成人式（ビデオレター、コンサートなど） 清水地域の地区成人式は従前どおり実施

<現在の成人式の実施状況>

	市式典	新成人主催成人式	清水地区成人式
対象者	新成人全体	新成人全体	清水区在住、出身者
主催	市	新成人実行委員会	地区実行委員会
会場	グランシップ 中ホール	グランシップ 大ホール	生涯学習交流館他
入場料	無料	1,000円	無料
収入	市費	入場料収入 企業からの協賛金	市からの補助金 自治会経費
開催日時	1月3日 13時～ 20分程度	1月3日 14時～ 2時間程度	成人の日または 前日の 午前2時間程度
出席者数	1,074人	2,760人	1,708人
良い点	市の行事として 厳粛な式典が実 施されている。	新成人の手で企画。 運営されている。	地元を挙げて祝う。 お互いの顔が見える。 地域の絆の再認識。

※平成23年1月実績

## 2 静岡市の現在の成人式の課題

### ●静岡市としての一体感を持ちにくい

静岡市と清水市との合併から間もなく 10 年を経ようとしておりますが、成人式は複数の方式により実施しています。もちろんこれらは始めた人々の思いがあり、課題解決に向けて運営する側が努力して経験を積み上げてきたものです。各々の式典に優れた点があり、決してその意義を否定するものではありません。

しかし別の視点から静岡市の行事としてあらためて考えてみますと、合併して同じ市になった意義が形として活かされておらず、祝う側も、祝われる側も同じ静岡市の新成人としての一体感が持ちにくいことも事実です。

### ●各地区開催方式における若者自身の運営への参加と厳粛な運営形態が求められる

清水区では、主に中学校区単位で成人式が開催されており、現在の各地区開催形態では、式典の準備や運営について、成人式典の主役である若者の関わりが少ない地区もあり、若者自身の手による成人式典の運営が求められます。

また、旧知の仲である者どうしが集まることから、和やかな同窓会的雰囲気が強くなっていますが、一方で新成人一人ひとりが自発的に社会人としての自覚が芽生える厳粛な式典の運営形態が求められています。

### ●大人としての責任を自覚し社会への積極的参加が求められる

子ども時代には、大人社会がひいたレールの上を大人の力で導かれ、おとなしく歩いて来ることもできました。

しかしながら、大人としての第一歩を踏み出す次代を担う新成人には、その責任を自覚するとともに、これまで両親や地域の人たちなど多くの大人から与えられたものを社会人として広く社会へ恩返しをし、貢献するため、社会への参画意識を喚起する式典が求められています。

### 3 成人式に求められる視点

#### ●静岡市民としての一体感

現在、成人式典においても新成人全体の式典とともに清水地区における清水地区成人式が開催されているなど、合併後もひとつの市の中に異なる制度や方式が残っているものもあります。

新成人が式典に参加し、地域の中で育てられたという想いや感謝の念を改めて感じることは非常に大切で、成人となっても持ち続けることを希望します。さらに、静岡市の未来を担う若者には、**様々な問題を市全体の観点から考えることの重要性も認識**してほしいと思います。

子どもから大人になることを社会全体が認める場でもある成人式典において、若者自身の創意と工夫、そして毎年改善するための継続した努力により、**参加者が地域（旧静岡市・旧清水市・旧蒲原町・旧由比町）にプライドとこだわりを持ちつつ、静岡市民としての一体感につながることを期待**されます。

#### ●厳粛さと和やかさ

成人式典は、新成人が子どもから大人になることで、自らの判断と責任において行動するよう求められる大人としての厳粛な第1歩を踏み出すことを自覚する機会でもあります。

また一方で、社会経験の未熟な新成人が、厳しい社会の中で他者に過度に依存するのではなく、強い意志で生き抜くためには、時には若者同士の絆を感じ、仲間の間で励まし助け合うことも必要です。

そこで、自己への厳しい自制心を持つとともに温かい友人関係も尊重し、**自立した大人としての自覚を促すことを目的に、厳粛さと和やかさを兼ね備えた成人式典**が開催されることを期待します。

#### ●若者自身の運営

新成人が成人式という人生の貴重な筋目の機会を自分のこととして自覚すると同時に、大人として社会を形成する主体となるため社会への積極的参画が求められるようになることを認識することが重要です。

そのためには、成人式典という機会においても当日の成人式典に受動的に参加するだけでなく、**できる限り多くの新成人や若者が運営に能動的に参加**することを促進する必要があります。

現在、新成人主催の第2部成人式は新成人を中心とする若者が「新成人による実行委員会」を組織し、準備から当日の式典運営や資金調達まですべてを担っています。

また、実行委員会の新たな試みとして、平成24年1月の成人式典に向け、周知を一層図る目的でプレイベントも計画されているなど、その活動は年々活発に展開されています。

同実行委員会によるプレイベントなどの積極的活動は、マスコミに紹介される可能性が高く、新成人だけでなく将来の新成人にも実行委員会と成人式典について一層関心を喚起することができます。市のホームページを活用し、プレイベントの紹介や結果報告を行うことも効果があると思われます。それら一連の活動は、より多くの若者の運営への能動的参加につながる試みとして期待されます。

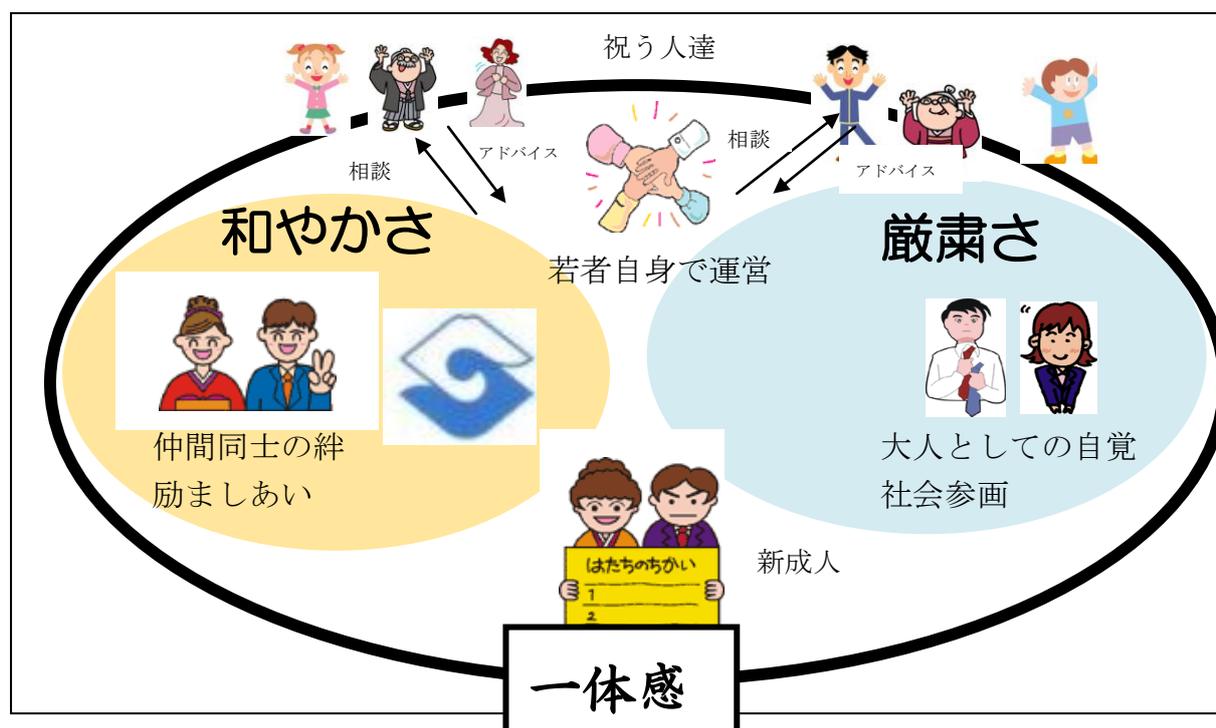
### ●大人としての自覚と社会参画を促す

大人になることにより大人としての権利が付与されるだけでなく、それと同時に義務が課せられるため、社会の中で自らの行動には責任が発生することを自覚させる必要があります。例えば、政治や選挙、年金の問題などについての意識を高めることが求められます。

また、地域や社会から得てきたものを社会に還元する立場になったことを自覚し社会に積極的に参画し貢献するため、地域での活動やボランティア活動などへの参加も期待されます。

このような中、既に「新成人による実行委員会」では、自ら資金調達を行っており、余剰金を社会福祉団体に寄附するなど社会貢献を果たしています。

こうした取組に加え、同実行委員会のメンバーだけでなく成人式参加者全員が、**大人としての自覚をもち社会参画する**ため、選挙啓発イベントやボランティア活動の事例紹介などを成人式典の中で実施することも検討する必要があります。



## 4 静岡市にふさわしい成人式運営形態の検討内容

前章の「成人式に求められる視点」に基き、本市にふさわしい形態について、

- (1) 主催者（市、新成人他）
- (2) 開催形態（一箇所集中形態にするか、分散形態、3区あるいは中学校ごとなどの地区別）
- (3) 開催日  
などの点から討議しました。

### (1)主 催

成人式のメニューは1部式典と2部行事に分けられます。市と新成人中心の実行委員会がそれぞれ主催する方式と実行委員会が主体となって主催する方式等を検討しました。

- ・1部、2部とも分け隔てなく、新成人を主役にする。
- ・客としてではなく、自分の身近なこととして考えてもらうため、新成人には1部、2部の運営全てに参加してもらう。
- ・新成人が中心の実行委員会が主体となり市と協働で運営する。
- ・実行委員会のメンバーは、特定高校出身に偏るべきでなく広く一般公募する。

これら意見から、**1部、2部とも新成人中心の実行委員会が主体となって市と協働で運営することがふさわしいと**考えます。

### (2)開催形態

①一箇所集中形態、②区ごとの形態、③葵区・駿河区は一箇所集中形態、清水区は中学校区ごとの形態等を検討しました。

#### ①一箇所集中形態

- ・「旧静岡」「旧清水」「旧蒲原」「旧由比」という枠を乗り越え、各地区の若者が一堂に会する市としての一体感を持ちたい。
- ・10年を迎える合併の意義を示すことが可能である。
- ・政令市としての発展につながる。
- ・葵・駿河・清水の区間で転校していても、区を越えて両方の友人に会うことが可能である。
- ・市域は広いが、1日のみの行事なので参加は十分可能である。
- ・共通の思い出として将来につなげることができる。
- ・コスト削減できる。

(課題)

- ・ 7,000人（新成人住民登録者数及び外国人登録者数）を収容できる会場が限られている。
- ・ 山間地などは距離的な面や交通面から出席が大変であり、出席率の低下が懸念される。
- ・ 清水区民の参加率低下が懸念される。住民感情への配慮が必要である。

## ②区ごと（葵・駿河・清水）形態

- ・ 市よりもコンパクトな存在である区の方が、知り合いの顔ぶれも多いし、距離も近いので出席率の上昇にもつながる。
- ・ 区を意識するため市としての意識が低いことである。
- ・ 清水区においては、平成24年夏にJR清水駅前にオープン予定の「マリナー」(市民文化会館)の利用開催も視野に入れて検討したい。

## ③葵区・駿河区は一箇所集中形態、清水区は中学校区ごとの形態

- ・ 清水区においては中学校区単位で長年式典を行っている。温かみのある雰囲気で行事への出席率も高い。
- ・ 地域で行事を行うことは「まちづくり」の形としてもよい。

3章の成人式に求められる視点に基づき、内容を比較検討したうえで①一箇所集中がふさわしい形態であると考えます。

## (3)開催日

- ・ 成人の日の開催が望ましいが、会場の確保が難しい。
- ・ 市外の大学や企業に通う新成人が参加しやすい状況を考慮する。
- ・ 従来の「成人の日」だと県外の学校に通っている学生は学校が始まっており、参加できないことがある。正月休み中の方が参加しやすい。

以上の点から、成人の日に特定することなく**新成人が参加しやすい日程**を配慮することがふさわしいと考えます。

## 5 静岡市にふさわしい成人式運営形態を実現するために

前章の検討内容に基づき以下の形態を提案します。

### 『静岡市にふさわしい運営形態』

- ◇ 主 催  
新成人が中心の実行委員会が主体となる市との協働運営
- ◇ 開催形態  
全市で一箇所集中開催
- ◇ 開催日  
新成人が参加しやすい(成人の日に特定しない)日程の設定

このように実行委員会が主体となり、市と協働で一箇所集中方式により開催する形態は、静岡市としての一体感のある式典としては理想的ですが、実際に開催していくうえでは以下のような取組を着実に進めていく必要があります。

### ●「新成人による実行委員会」メンバーに幅広い層の若者の参加

「新成人による実行委員会」は発足当時から旧静岡市の特定高校のOBのみにより運営されてきました。高校生時代からの旧知の仲であるため、多数の若者が県外の大学に進学しても意思の疎通が容易で、同実行委員会の運営をスムーズに行うことが可能になっています。

しかしながら、市全体の一体感を醸成するためには、一箇所に全成人が集まる運営形態を採用するだけでなく、今後運営主体となることが期待される同実行委員会についても、市内の様々な若者が参加することが重要です。メンバーが多様化した実行委員会が成人式の企画・運営を行うことで、静岡市の未来を担う若者が地域の垣根を越えて全市的な視点で地域の事を考える機会につながります。

また、当該年に成人式を迎える新成人だけでなく、翌年以降に新成人となる多数の若者や成人式経験者も実行委員会に参加することになれば、様々な地域の若者の参加による横の広がりだけでなく世代間の縦の絆も深めた実行委員会のメンバー構成になります。幅広い層の多様な人材による多彩なアイデアと実行力を有効活用することで、成人式本番の運営だけでなくプレイベントについても、広く市民の関心を集めることができ、成人式と実行委員会の活動を全市

的に周知できると考えます。

成人式は本市においてもその社会的影響の大きな行事であることから、若者自身のこれらの取組は、若者の無限大のパワーによる静岡市の真の一体化へ向けてのチャレンジとして、全市民への強力なメッセージを発信できるチャンスとなることが期待されます。

### ●より多くの若者が厳肅さを感じる第1部式典の開催

現在、第1部式典の内容は運営主体である市がすべて企画し、式辞および祝辞そして誓いの辞などにより構成されており、参加した新成人の間でも、厳肅な雰囲気の評価する声が聞かれます。第2部行事の和やかな雰囲気と異なり、第1部式典では大人としての責任を自覚するとともに、両親や恩師あるいは地域の人など多方面から関わっていただき自分を育てていただいた方々への感謝の念を感じることができる式典を目指す方向性は維持することが必要であると考えます。

第1部式典についても実行委員会が運営主体となり、市と協働で式典を開催する場合、第1部式典について今以上により多くの参加者が厳肅さを感じることができるにはどうしたらよいか若者自身が若者の視点で内容を再検討し改善することで、式典の本来の意義を深く再認識する機会となることを期待します。

### ●式典内容の充実・改善と参加率の向上

多くの若者からの要望を採り入れるため、第1部・2部式典それぞれのニーズの把握に努め、他市の状況も大いに参考にすることも必要です。そして、成人式典の本来の趣旨を踏まえた上で、より魅力的なテーマや内容となるよう実行委員会の同年代の意見を尊重して毎年改善していくことが重要です。

さらに、1部2部とも実行委員会と市の協働という運営主体が同一であれば1部式典と2部行事について連動した内容を検討することが可能になると考えられます。

### ○会場

現在の会場であるグランシップは市の中央部近くに位置し、JR駅にも隣接しているため全市一箇所方式を採用する際には、最適なロケーションであると考えられます。

しかしながら、静岡市は市域が広く遠方の新成人には不便な会場でもあることから、式典開始時間の検討などを含め市内全エリアに居住する新成人のことも考慮した運営方式等の工夫が望まれます。

### ○式典へ出席できない人の参加

成人式典に出席したいのに式典当日に病気や不慮の事故などのやむを得ない事情により出席できない場合が考えられます。一生に一度の機会を自分の意思に反して失ってしまうことは、本当に残念なことです。そこで、例えば、式典当日の様子をインターネット上で配信することができれば、欠席せざるを得なかった新成人も、空いた時間に見ることができ、人生の大きな節目を迎えた感動を同世代の若者と共有することが可能になります。これは式典当日の出席率には影響しませんが、間接的出席率として広い意味での参加率の向上につながるものであると考えられます。その上、翌年以降の成人式典の対象である新成人をはじめ、広く多くの市民の方々に新しく生まれ変わった成人式典の周知が可能となります。

### ○参加率の向上

新成人が大人としての自覚を持って参加することを促進する観点とともに、参加率の向上は、どのような内容や運営形態・開催方式を採用しても成人式典における重要な課題です。しかしながら、一回の改革だけでは全ての課題を解決することはできません。そのため、実行委員会と市による協働運営形態への転換機を実行委員会が拡充する初年度と位置付け、全ての関係者の皆様が今後とも継続的な改善努力を行うことを期待します。

# <新しい成人式の様子>

静岡市の若者の門出を  
みんなでお祝いしよう



経費はどれくらい  
かかるのかな?

## ●若者自身が企画・運営



多くの仲間に  
参加してほしいね!

久しぶりに静岡で  
友達に会えるね

## ●1会場で集中開催



私達の仲間が  
企画したんだね。

## ●魅力のある成人式



成人式について  
多くの人に理解  
してほしいね。

成人式の様子を  
ネット配信

## ●インターネットによる配信



宣伝効果もあるし、  
みんなを盛り上げ  
たいね。

ネットを通して  
成人式に参加できるね。



当日は仕事で行けなかつた  
けど、こんな様子だった

## ●イベントの実施

収益がでたら、  
社会福祉社のため  
に寄付しよう。



## ●社会参画

## 6 成人式典検討委員会の開催の経緯

### 第1回 平成23年4月27日(水) グランシップ 905 会議室

- 委員自己紹介、委員長選出
- 成人式の起源、これまでの経緯、現在の式典説明
- 今後の開催方法への意見交換

### 第2回 平成23年6月29日(水) 静岡市役所清水庁舎 302 会議室

- 開催方法の検討を行った。主な意見は次のとおり
  - ・合併して10年も経つたから「旧静岡」「旧清水」と区別するのは止めていきたい。
  - ・静岡市の新成人として共通の思い出を持つため一箇所を薦めたい。
  - ・和やかな雰囲気で行事だけでなく、大人としての責任を自覚する厳粛な雰囲気の式典も大切。
  - ・式典と行事を分けて開催する現行方式ではなく、まとめて開催したい。
  - ・若者が主役であるので、実行委員会の中心となり企画・運営に積極的に参加してほしい。
  - ・出席率の上がる内容を検討してほしい。
  - ・地区開催形態、区開催形態の長所についても意見が出された。

### 第3回 平成23年7月25日(月) 青少年研修センター

- 開催方法案を決定した。
  - 主催は1部式典、2部行事も新成人実行委員会が中心となる。
  - 開催方法は1部、2部とも一箇所集中開催とする。
- 提言書の構成について討議を行った。

### 第4回 平成23年9月1日(木) 青少年研修センター

- 提言書の内容について意見交換を行った。
- 提言書をまとめた。



## 7 委員のコメント

静岡市の成人式のあり方を検討し方向づける役目ということで、最初は責任と重圧を感じました。ただ、様々な世代・地域・立場を代表する委員・行政職員の皆さんとざっくばらんに意見交換をしてみると、この委員会は私自身にとっても得難い機会となったように思います。議論の中で、成人式は、世代間、地域間、市民－行政間の協働の上に成り立ち、また新たな協働を生み出すものであるべきことが実感されました。そしてこのことは、成人式に限らず、他の多くの事業や取り組みについても言えるのではないかと感じました。こうした議論と検討を行う機会があったことは、合併と政令市への移行を終えた静岡市の今後のあり方を考える上でも重要なことではないか、といま考えています。貴重な機会をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

(阿部耕也委員長)

第1回より第4回の委員会が終了しました。当初は皆な初めての顔合わせにてやや表情も堅かったが回を重ねるごとに意見も活発に出て来ました。

私は当初より静岡市全体での開催を希望していましたが、全員の意見もその方向に向いており非常に良い事だと思います。

清水地区の問題がありますが一度全体でやってその結果を反省し次年度に活かしていけばよいと思います。

(瀧 義弘委員)

意見を活発に交換することができ、提言書をまとめることが出来ました。

ただ、私としては、成人式の目的、新成人に何を期待するのか、そのためにどうするのかという議論はあまりされなく、合併して8年とか、一体感とかに終始したように思います。今後若い人達に静岡市の役にたつ人になってもらうためにどうしたら良いか考えてゆかなければなりません。静岡市といっても具体的には地域を活性化することが結果として静岡を良くすることだと思います。

(遠藤日出夫委員)

世代の異なる方々から多彩な意見が提案され、毎回、新鮮な気持ちで議論に参加させていただきました。とりわけ若い委員の積極的な発言が印象に残っています。静岡市内の3つの区が一体となり、世界に羽ばたいていく可能性を目の当たりにしました。45年ほど前に成人式を終えた私ですが、今後も前向きな姿勢を忘れず、彼らと共に学び、研鑽を積んでいきたい、と強く思いました。

(青木孝輔委員)

今回の成人式実行委員会に参加させていただき、10年前の自分の成人式を思い出してみました。当時はなつかしい仲間に出会えるくらいの気持ちで参加しましたが、式典に参加したあとに新成人になるんだなと実感したことを思い出しました。議論の中心も、成人式のあり方について長い時間意見交換を行いました。その中で、大学生委員の方から、責任という言葉や、自覚という言葉が聞けたことは私にとって驚きでした。様々な世代の委員が限られた時間の中で政令市静岡市の成人式のあり方について考えました。私自身も大きな刺激を受けた委員会となりました。新成人の方々の自覚と責任が芽生えるような式典となるよう願っています。

(鈴木和樹委員)

この度、計4回に渡り「静岡市成人の日式典開催に関する検討委員会」に参加し、未来のあるべき成人式について、検討委員会の皆さんと活発な意見交換ができたと思います。私は、第2部の実行委員会の経験を踏まえ、現状の課題や改善点を述べました。その中で、自治会長さんや市民委員の方、市の職員の方それぞれの成人式に対する考え方を知ることができました。この場での内容をもとにした提言を土台に未来の成人式を作り上げてもらいたいと思います。

(加納宏紀委員)

半年間に渡り、このような静岡市にとって非常に意義のある委員会に参加させて頂き、ありがとうございました。回を重ねる中で、静岡市の目指すべき成人式像をつくっていったように思います。成人式典は、新成人のみならず、それを祝う側にとっても重要な儀式です。今後、様々な立場の人の考えを取り入れながら、徐々にその理想に近づいていくことでしょうか。この委員会がその足がかりとなれば幸いです。

(杉山大祐委員)

都合がつかず、二回のみ参加となってしまいましたが、成人式の在り方とはどうあるべきか、と考える意識がとて強くなりました。検討委員会の皆様の貴重なご意見を受け止め、自分達は主体であるという意識をもち、今回話された内容を、より多くの方や、私の場合は特に若者に伝えていくというのが、これからの私の役割だと感じております。このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

(那須野 隼委員)

## 大人への門出を祝うために

～今後の静岡市成人式典の開催形態について～（提言）

### 静岡市成人の日式典の開催に関する検討委員会

（事務局：静岡市 保健福祉子ども局 子ども青少年部 青少年育成課）

TEL 054-221-1698

<http://www.city.shizuoka.jp/deps/seishonen/kongoseijin.html>